

Title	故鎌倉昇教授略歴
Author(s)	経済学会
Citation	経済論叢 (1969), 104(3): 216-217
Issue Date	1969-09
URL	https://doi.org/10.14989/133359
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

經濟論叢

第104卷 第3号

哀 辞

故鎌倉 昇教授遺影および原稿

経営戦略について……………	田 杉 競	1
ニュースと「企業性」の接点……………	島 崎 憲 一	23
フィスカル・ポリシーと完全雇用……………	森 岡 孝 二	41

記 事

鎌倉教授逝く

追悼講演 (石川常雄・市村真一・堀江保蔵)

追憶談 (杉浦一平・吉田進・西村理・引馬滋)

故鎌倉昇教授略歴・著作目録

昭和44年9月

京 都 大 学 經 濟 学 會

故 鎌倉 昇 教授 略歴

- 大正 13 年 8 月 29 日 大阪市東区岡山町に生まれる
- 昭和 6 年 4 月 大阪市立中之島尋常小学校入学
- 昭和 12 年 3 月 大阪市立中之島尋常小学校卒業
- 昭和 12 年 4 月 大阪市立天王寺商業学校入学
- 昭和 16 年 12 月 大阪市立天王寺商業学校卒業
- 昭和 17 年 4 月 大阪商科大学高等商業部入学
- 昭和 19 年 9 月 大阪商科大学高等商業部卒業
- 昭和 19 年 9 月 東洋紡績株式会社入社
- 昭和 19 年 11 月 兵役(現役召集)北支
- 昭和 20 年 12 月 中華民国より復員
- 昭和 21 年 7 月 東洋紡績株式会社退社
- 昭和 22 年 4 月 京都大学経済学部入学, 青山秀夫教授の指導を受く。
研究事項: 「最近の英米経済学, 就中国所得理論を中心とする経済分析」
- 昭和 25 年 3 月 京都大学経済学部卒業
- 昭和 25 年 4 月 京都大学大学院(経済学部)に入学, 特別研究生を命ぜらる
- 昭和 26 年 7 月 東京大学に於いてアメリカ研究セミナーに参加, ハワード S. エリス教授の指導を受く
- 昭和 26 年 9 月 処女出版: 「国民所得と資源」(市村貞一共著)
- 昭和 28 年 3 月 京都大学大学院卒業
- 昭和 28 年 4 月 経済学部助手となる
- 昭和 29 年 7 月 アメリカ合衆国へ出張, スタンフォード大学へ留学, E. シュウ, K. アロウ教授の指導を受く(昭和32年4月まで)
- 昭和 32 年 11 月 経済学部助教授となる
- 昭和 33 年 4 月 学部講義, 計量経済学を担当。教養部へ出講(非常勤), 経済学概論を担当(昭和34年3月まで)
- 昭和 33 年 9 月 京都市立美術大学講師
- 昭和 34 年 4 月 華頂短大講師
- 昭和 34 年 8 月 アメリカ合衆国へ出張, 国際連合経済調査官(昭和37年4月まで)

- 昭和37年3月 経済学博士となる[学位論文：金融経済の構造]
- 昭和37年4月 学部講義，数理経済学を担当
- 昭和38年4月 学部講義，計量経済分析を担当
- 昭和38年7月 アメリカ合衆国へ出張，国際連合コンサルタント(昭和38年10月まで)
- 昭和39年4月 学部講義，数理経済学を担当
- 昭和39年7月 タイ，ビルマ，ヴェトナム，マレーシア，インドネシア，フィリピンへ出張(昭和39年8月まで)
- 昭和40年4月 学部講義，貨幣論を担当
- 昭和40年6月 理論計量経済学会理事
- 昭和41年4月 学部授業，英書経済講読(マクドーガル)を担当
- 昭和41年9月 イギリス連合王国，ドイツ共和国，フランス，ベルギーへ出張(昭和41年10月29日まで)
- 昭和42年3月 通産省産業構造審議会専門委員
- 昭和42年4月 学部講義，貨幣論を担当
- 昭和43年4月 大蔵省財政制度審議会特別委員
- 昭和43年4月 学部講義，金融論を担当
- 昭和43年7月 経済学部教授となる
- 昭和43年10月 京都大学学生部委員会委員
- 昭和43年10月 京都大学70周年施設委員会委員
- 昭和44年4月 学部講義，金融論を担当
- 昭和44年7月7日 長野県軽井沢で心筋梗塞のため逝去